頑張るナースの声 届けます

ナース情報ステーション石川では、ホームページやメールマガジンなどを通して
石川県で頑張っている施設とナースの皆さんの声を届けています。
今回の会報誌では平成25年度下半期に取材した内容の一部を抜粋し、掲載します。
より詳しいインタビュー内容は、ナース情報ステーション石川のホームページでご覧いただけます。

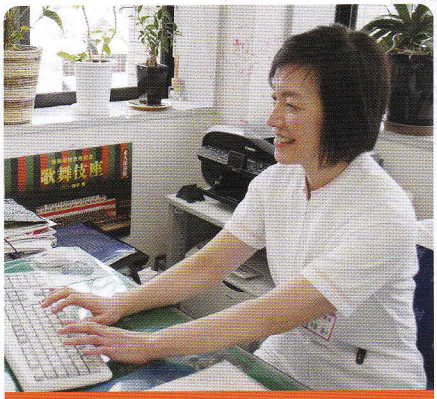
語り合い、喜びとやりがいを共有

金沢市立病院

若手ナースに働くことのやりがいや喜びを伝えなければならないと感じています。そこで、当院では看護部全体でコミュニケーションを取る機会を積極的に設けています。中でも、自身の看護経験を語ってもらうことは大変有効で、新人、若手ナースがこれまでに心に残ったエピソードを発表する場「ねえきいて　私の看護」では、看護部長として一人ひとりの成長を感じますし、周囲に対する感謝の心も伝わってきます。

日頃、なかなか口には出しにくい想いを伝えることで、教える側と教えられる側の両者が看護の喜びを共有できるのです。忙しい日々を送る中、少し立ち止まって、振り返ることや考えること、語ることが、これからのナースとしての成長には必要なのでしょう。

これからは人材の有効活用も視野に入れています。一般的に「60歳定年」と言われていますが、皆さんまだまだ活躍でき、達人の技をお持ちです。年齢を重ね体力的には不安でしょうが、身につけた技や知恵を地域のために大いに役立ててほしいです。



病院管理職　中西容子 看護部長

病院管理職　畑山邦子 看護部長（写真右）

「定時退社」と「有給取得」のススメ

安田内科病院（金沢市）

看護部長として病院の理解と協力を得ながら、ナースがやりがいを持って長く働くことのできる環境を整えています。中でも「定時退社の徹底」と「有給休暇の取得率80%以上」には力を入れてきました。

スタッフが仕事と家庭を両立させるためには、残業の無い職場環境が望ましいと考えています。必要以上の残業を減らし、定時退社を徹底するためには、常に一定のマンパワーを維持することが欠かせません。当院の場合、食事や入浴などに関わるケアスタッフの日常生活援助力が大きいです。おかげでナースは医療や看護に専念できやすく、たとえ業務上の負担があっても、各スタッフが協働することで軽減しています。

最後に当院は他の医療施設で看護の経験を積まれたベテランが多く、新人看護師が学ぶには、とても良い環境だと思っています。近年はプリセプター制を導入するなど、新人教育にも力を入れています。これからも看護の仕事が大好きなナースとともに、地域の皆様の健康や生活を支えたいですね。

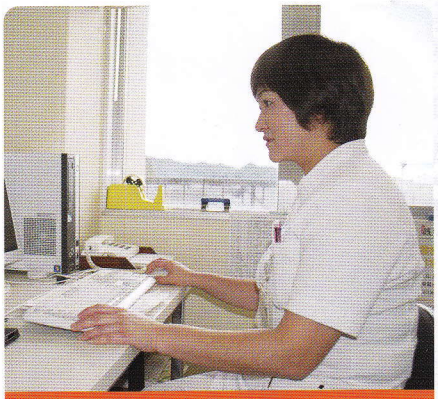
対話で関係を築き、「第二の家族」に

桜ヶ丘病院（金沢市）

精神科の患者さんが利用する病院なので、聞くことを意識しています。新人ナースにも、その重要性を説いています。日々の会話から、一人ひとりの健康な部分や病んでいる部分を把握することが看護のカギを握るといっても過言ではないでしょう。

例えば、不安で不眠を訴える方は少なくありません。そのような時、「寝なさい」の一言で突き放すのではなく、何か原因があるのではないかと時間の許す限り、話に耳を傾けます。患者さんの中には話すことで気が晴れる方も結構いますね。

長期入院をする方が多いため、私にとって患者さんは「第二の家族」のような存在です。毎日のケアに心を込め、時には厳しく指導することもあります。信頼関係があってこその家族です。こちらが苦手だと感じて距離を取れば、大きな溝ができてしまいます。そうではなくて、こちらから気持ちよく声を掛けること。自分が変われば相手も変わるものです。そして互いが分かり合えれば、もっと深い関わりができるのではないでしょうか。



病院管理職　三中陽子 看護副部長